

6-1 電子成果品の作成

1. 電子成果品とは？

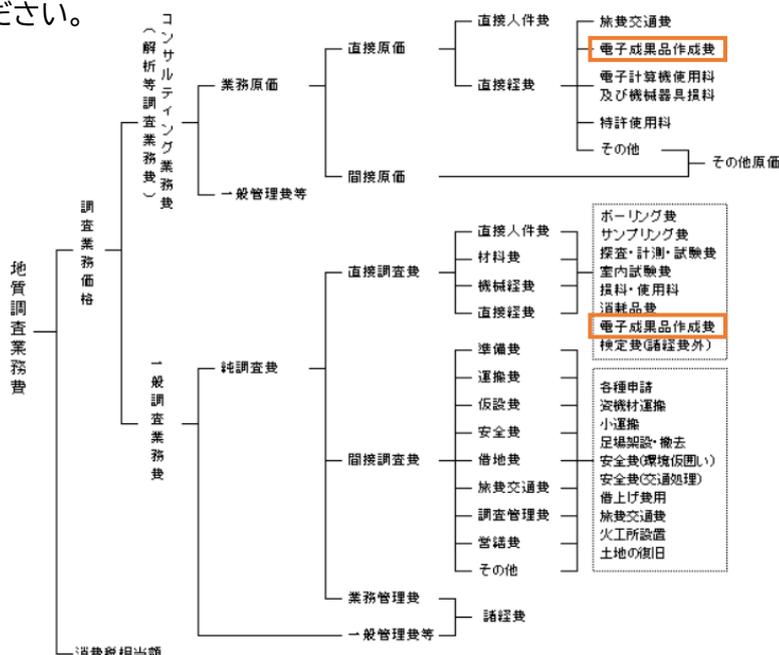
電子成果品は、報告書文書をはじめ、各種図面や現場写真、地質データなどの成果を発注機関の電子納品要領に従いデータ化し、CDやPC上に保存したものです。

なお、作成の際は、ボーリング位置座標の確認やデータの有無について有識者の確認、また作成したデータのウイルスチェックが必要となります。

2. 「電子成果品作成費」赤本における積算のポイント

■電子成果品は一般調査業務費とコンサルティング業務費の両方で計上が必要！

どちらか一方ではなく、必ず両方計上してください。



- ・一般調査業務費における電子成果品作成費

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = (A \times 0.02)$$

A：一般調査業務費における直接調査費の総計を指します。

- ・コンサルティング業務費における電子成果品作成費

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = (B^{0.5} \times 5.2)$$

B：コンサルティング業務費における直接人件費の総計を指します。

■下限と上限がある！

上記の計算式を用いて算出した電子成果品作成費には、下限と上限がありますので、注意してください。

下限：30,000 円

上限：900,000 円

■電子成果品作成費は千円単位で算出。千円未満は切り捨てる！

一般調査業務費における直接調査費、コンサルティング業務費における直接人件費の総計は、どちらも千円単位とし千円未満を切り捨ててください。また、電子成果品作成費で算出した費用についても千円単位とし千円未満は切り捨てます。(2度千円未満を切り捨てるタイミングがある)

■成果品を紙媒体で作成する場合は、算出した電子成果品作成費に 0.8 をかける！

各業務費で算出した電子成果品作成費に 0.8 をかけて、紙媒体の成果品作成費を算出します。

ただし簡易製本で2部作成の場合にのみ適用されるので注意してください。

3. 積算の例

①一般調査業務費における電子成果品作成費の算出

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = (A \times 0.02)$$

A：一般調査業務費における直接調査費の総計を指します。

機械ボーリング	1,717,500 円
原位置試験	169,500 円
土質試験	20,500 円
岩石試験	42,800 円
移動変形調査	3,748,500 円
解析等調査	165,100 円
	→合計 5,863,900 円
	→1,000 円未満を切り捨て A : 5,863,000 円

一般調査業務費における電子成果品作成費

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = (5,863,000 \times 0.02)$$

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = 117,260$$

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = \underline{117,000 \text{ 円}} \text{ (1,000 円未満切り捨て)}$$

②コンサルティング業務費における電子成果品作成費の算出

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = (B^{0.5} \times 5.2)$$

B：コンサルティング業務費における直接人件費の総計を指します。

打合せ協議	332,400 円
	→1,000 円未満を切り捨て B : 332,000 円

コンサルティング業務費における電子成果品作成費

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = (332,000^{0.5} \times 5.2)$$

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = (2,995)$$

$$\text{電子成果品作成費 (千円)} = \underline{2,000 \text{ 円}} \text{ (1,000 円未満切り捨て)}$$